

ビオトープ便り ~タガメ~ *Cover Story*

皆さんはタガメという昆虫をご存知か。名前のとおり「田亀」、昭和の時代には田んぼでよく見られた昆虫である。大きな前足でカエルや小魚を捕まえる姿がダイナミックなので、クワガタについて昆虫マニアには人気がある。しかしその姿とは逆に非常にデリケートで、農薬でほとんど絶滅してしまったのである。実はそのタガメを昨年から生物室で飼育している。やはりマニアである卒業生に卵塊をいただき、

孵化したのだが、冬を越した時にはメス1匹になってしまった。何とかつがいとなるオスを見つかったのだが、埼玉のこの辺ではゲンゴロウと同様に絶滅したとされている。そんな中、越谷北高校の生物部が飼育しているのを聞き、お願ひしたところ、オス2匹を譲ってもらえた。さっそく水槽に放したところ、お腹がパンパンに膨れたメスと1時間もしないうちに交尾し、翌日には産卵用の杭の上に卵塊が。近づくとたちまち水中からオスが登ってきて卵を守り威嚇してくる。メスは産卵すると去ってしまうが、オスは卵が孵るまで水をかけながら守るという昆虫では珍しい生態をもつのである。

3日後に残念ながらメスは亡くなってしまったが、オスは10日間食うものも食わず、ひたすら卵を守り続けた。同じオトコとして脱帽である。しかし、本当に残念ながら卵は孵らなかつた。原因はわからない。そんなわけで、今度はオスが2匹残ってしまった。今度はメスを探して、来年こそはタガメを殖やし、学校の田んぼにぜひ放し、より昭和らしい田んぼを再生したい。タガメ以外にも絶滅危惧種がたくさん棲息できるような、志木高校をノアの箱舟のようにしたいと思う。ぜひ皆さんも協力してください。タガメ水槽、産卵の写真はあとで生物室に貼っておくので、ご覧になりたい方はぜひどうぞ。

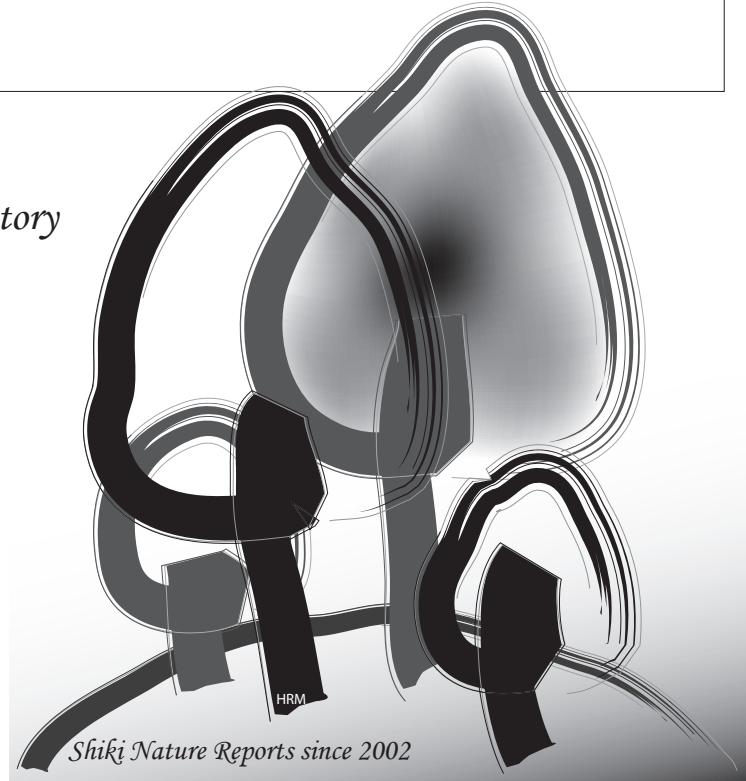
(Izawa)

巣立ち

Episode

カルガモが9月1日に無事に巣立つていった。8羽孵ったヒナの中で1羽だけが最後まで育ってくれた。カルガモの寿命は3,4年と言われているので、来年無事につがいをつくって戻ってくるのを祈るのみである。志木高の防火用水池で初めてヒナが孵ったのは1993年。それ以降、巣立ちまでたどり着かぬことはあつても、19年間毎年カルガモは本校の池を訪れる。巣箱も既に4世代目に入った。野鳥なので過保護にあつかう気はないが、訪れてくれた客をもてなすのは礼儀ある、とも思っている。長い付き合いになった。

(Miyahashi)



志木の自然[文月(7月),葉月(8月),長月(9月)]

Plants [2011年7月～9月までの開花情報]

『足下→頭上注意!!!』。以前に一度書いたかも知れないが、最近、サクラの樹の下に黒い小さい粒が落ちている。雨にあたると膨らんで少し大きくなり、周囲を赤紫に染めている（コンクリート上のこれを踏むと滑りやすいので注意！）。正体は「毛虫の糞」である。おそらく、アメリカシロヒトリ（という蛾）だと思われるが、秋になると大きく成長した幼虫がサクラの樹の下に大量に糞を落としているのである。毛虫が落ちてくることはほとんどないが、用がなければサクラの樹の下には近づかないことである。

Grass

1st Jul. 2011 タケニグサ, ヤブガラシ, ネジバナ, エノコログサ, ワルナスピ

9th Jul. 2011 ジャノヒゲ, ヤブカンゾウ, ミズヒキ, ヒルムシロ, ヨモギ, ヤブマオ, ヒメガマ, イシミカワ, ノブドウ, センニンモ

22th Jul. 2011 ヤマユリ, オオアレチノギク, メヒシバ, オニユリ, カラスウリ

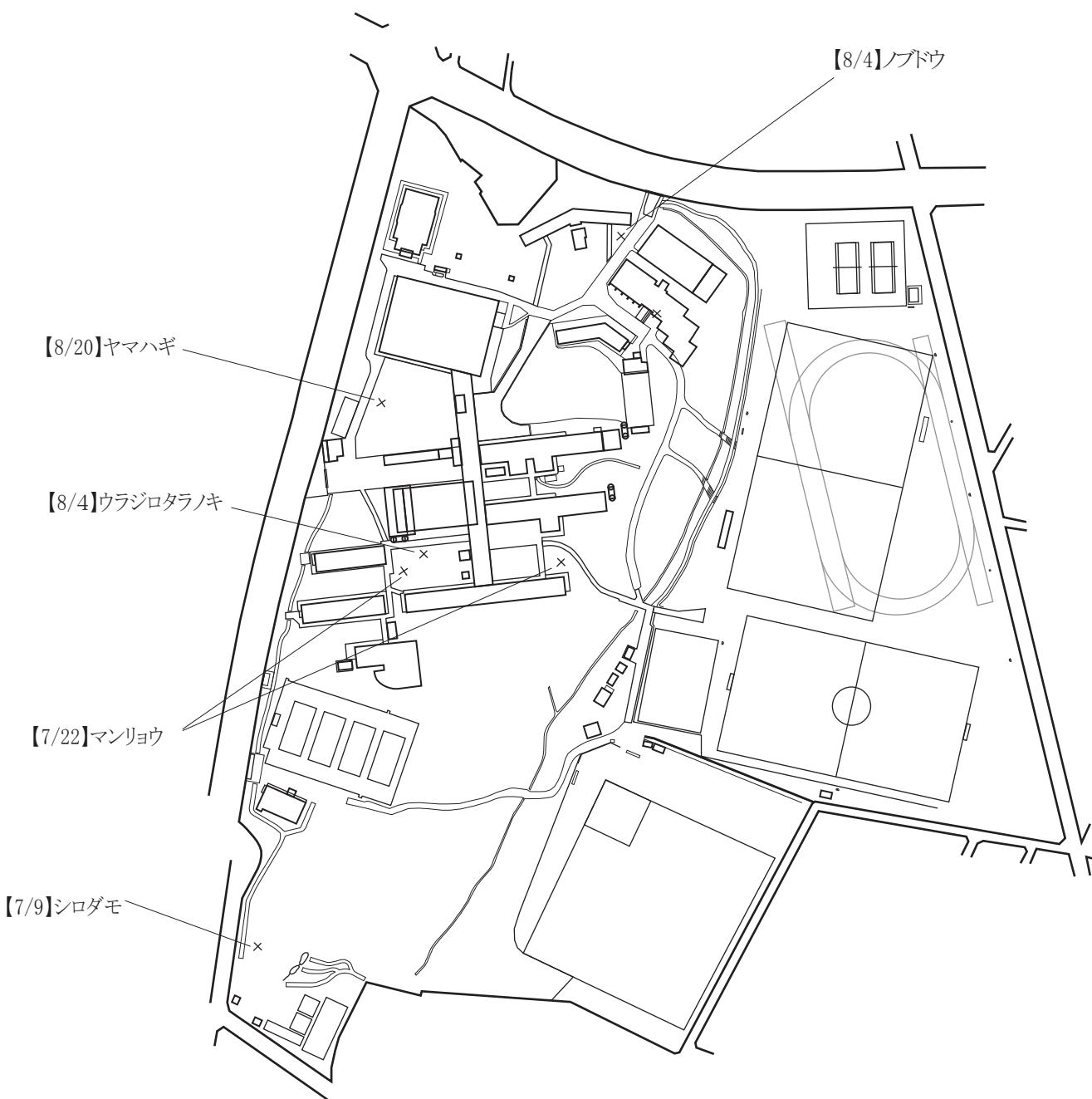
4th Aug. 2011 キツネノマゴ, ヤブガラシ, オヒシバ, コニシキソウ, ミョウガ, ミツバ, イヌホオズキ, ヘクソカズラ, ヤブマオ, ヤマノイモ, オオマツヨイグサ

20th Aug. 2011 ヒメムカショモギ, ヘクソカズラ, ミチヤナギ, ベニバナボロギク, ヤブラン, ヒナタイノコヅチ

5th Sep. 2011 ギョウジャニンニク, ブタクサ, イヌタデ, ノブキ, カントヨメナ, アレチウリ

エノキグサ, オオケタデ, オトヨモギ, カナムグラ, オオブタクサ, センニンソウ

Wood



この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

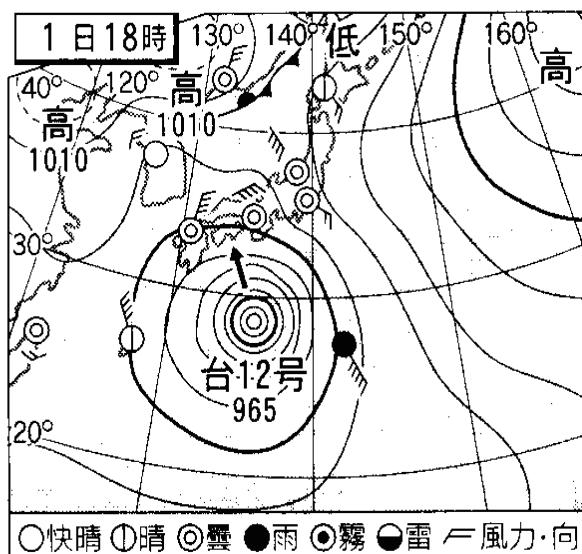
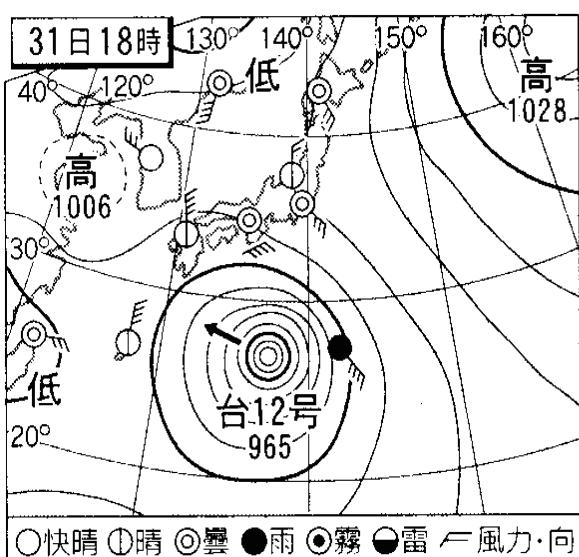
(Miyahashi)

この台風で紀伊半島を中心に土砂崩れや河川の氾濫による災害が起きたことは記憶に新しいと思います。何度も報道されている通り、この台風は非常にゆっくりとした速度（自転車並みと説明されていました）で北上したため、同じ地域に長い時間雨をもたらしました。気象庁によれば、紀伊半島の広い範囲でこの台風による総降水量は1000ミリを超え、特に奈良県上北山村にあるアメダスでは72時間雨量が1652.5ミリとこれまでの国内観測記録の1322ミリ（宮崎県神門（みかど）2005年9月4～6日）を大幅に上回り、総降水量は1808.5ミリとなつたそうです。直接の観測ではありませんが気象レーダーの解析からは一部の地域で2000ミリを超えたであろう地域もあるようです。

さて、この台風は「大型で強い台風」として日本の南岸に接近しました。「大型（大きい）」というのは定義があって、風速15m/s以上の強風域（テレビでは黄色の円）の半径が500km以上800km未満のものを言います。では「大型の台風が自転車並みの速度で通過した」というのはどのくらいの時間がかかるものなのでしょうか？単純に考えてみると台風の直径は少なくとも1000km。自転車の速度が15km/sとすると…通過に66時間かかる計算です。つまり、だいたい3日くらいは強風が吹いていた=湿った空気が同じ地域で斜面を登り雲を作り（記録的な）雨を降らせた－ということが推測されます。

もしかしたらこの台風12号、関東に来ていたかもしれない台風です。当初の予想では太平洋の高気圧の勢力を弱く見積もっていました。当時の予報円は小笠原の西からまっすぐ北に進み9月1日に関東直撃でした。しかし高気圧が次第に勢力を増し台風は西へ西へと押し流されていきました。その後、北上する速さがゆっくりだったのも、北の大陸からオホーツク海にかけて別の高気圧が居すわっていたからでした。もしこの台風が関東に直撃していたら…。先日ハリケーンでニューヨークが大騒ぎになったことを思い出しました。そのときはちょっと騒ぎすぎかとも思いましたが、あらためて台風を甘く見てはいけないと思いました。みなさんは、どう感じましたか？

(Higuchi)



月はどこから

行く末は空もひとつの武藏野に草の原よりいづる月かげ

新古今和歌集・秋四二二 摂政太政大臣

『口語訳』行末遙か彼方で空と野原が一つに溶けあう武藏野の草原から、月が昇るよ。

「武藏野」とは広くは関東平野、狭くは多摩川と入間川に囲まれた部分を指し、おおよそ府中から川越の間あたりをいうようだ。志木はまさにこの武藏野に位置する。「武藏野」は『萬葉集』から登場する地名で、冒頭の歌にみられるように、雑木林というよりは行けども行けども茫茫と野原の広がる地として捉えられてきた。

『新古今集』には「武藏野やゆけども秋の果てぞなきいかなる風か末に吹くらむ」という歌もあって、果てしなく続く野原が秋の興趣をかき立ててやまないと詠まれている。

『土佐日記』に、「都にて山の端に見し月なれど波より出でて波にこそ入れ」という歌がある。山がちの京の都では、月は山の稜線から昇る。しかしここでは、貫之らは船旅の途中海からの月の出を眺め、その驚きを歌に詠んだ。冒頭の歌も同じで、武藏野では草原から月が昇るのだという驚きが込められている。月はどこから出るか、山か野原かそれとも海か。見慣れた月の出と言わせて、人はどんな景色を思い浮かべるのだろう。満月以降の月に十六夜月、立待ち月、居待ち月、臥待月と日替わりで名がつけられているのも、月の出を待つ心の表れだ。ちなみに今夏オーストラリアで見たのは、日本ではあり得ない上弦の有明月、つまり左半分の欠けた有明月だった。

武藏野の風景はすっかり変わってしまったが、今年はどんな月の出を眺めることになるのか。二〇一一年の中秋の名月は九月十二日（旧八月十五夜）、月の出の時刻は十七時二十九分である。

（速水 淳子）

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (<i>Izawa</i>)
	鳥類・植物	速水 淳子 (<i>Hayami</i>)
	天文・気象	樋口 聰 (<i>Higuchi</i>)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (<i>Miyahashi</i>)
	編集	荒巻 知子 (<i>Aramaki</i>)